

4 論文

「私の提言『25年後のふくおか～人と環境と都市が調和のとれたアジアのリーダー都市を目指して～』というテーマで、これから先の福岡市はどうあるべきか、何をすべきかなどについて、論文の募集を行いました。

(1) 優秀賞論文

「25年後も、夢が実現できる福岡であるために」(橋詰信吾氏)

● 今後力を入れていくべき4つの施策の柱

1. 「海・陸・空でつながる交流のまち」

- ▶ 博多港に貨物線を再び引き込み、直接国内のコンテナ貨物を貨物線で集約・分散させるターミナル機能を構築する。
- ▶ 博多港と函館港が同様の機能をもつ姉妹都市となり、貨物列車を行きかわせることで、全国のコンテナ貨物を効率的に集配する物流システムを構築する。
- ▶ アイランドシティの国際コンテナターミナルに貨物線を引き込むことで、博多港に寄航した基幹航路や上海スーパーエクスプレス(上海から約1日で博多港に到着する高速コンテナRORO船)からのコンテナを直接貨車に載せ日本全国に配送し、また全国からの鉄路経由でのコンテナ貨物を受領できる環境を作る。

2. 「才能を磨き育てるまち」

- ▶ 福岡の進取性やアジア文化への親和性などを生かし、多様な価値観やライフスタイルを許容する文化を醸成する文化施策と、利便性の高い都心に立地する古いビルの所有者の行動を変化させ、リノベーションしてそこそこの使い勝手を実現した低廉な活動の場が市場に提供されるよう誘導を図る。
- ▶ 海・陸・空というさまざまな環境で、船、飛行機、新幹線、電車、様々な自動車など、たくさんの交通具が行きかう交流のまちであるという特性を生かし、現在の少年科学文化会館を発展させ、「海と交流と環境」をテーマとした科学館として再出発させる。

3. 「家族の幸せを実現するまち」

- ▶ 公園利用の改善、具体的には、住宅地の身近な公園の建設や管理に地元の人材・財力の協力を導入することや、福岡市の誇るべき資産である1小学校区に1つずつ設置された公民館をこれまで以上に子育て拠点として活用するため、魅力付けとしての図書館機能の向上などに取り組む。
- ▶ 高齢者の外出の動機付けのひとつとして、住宅街に残された未利用農地を市民農園(家庭菜園)として活用する。

4. 「自然エネルギーを活用するまち」

- ▶ 技術として成熟し、普及することで価格の低減が期待できる太陽光発電や風力発電などにも当然取り組むが、新たな都市の未利用エネルギーの活用として、都心部で排出される生ごみをバイオマス資源として活用し、都市として不可欠の電気・熱エネルギーとして還流させる。

「スマート×エコな自転車都市 FUKUOKA」(古舘美紀氏)

●交通事故多発都市からの脱却にむけた3つの提案

1. クルマから自転車への大胆なシフト

- ▶自転車の販売台数は毎年1000万台前後を維持している一方、乗用車の販売台数は減少の傾向にあることから、クルマ社会からの転換はもう既に始まっている。特に若者世代ではクルマ離れが進み、以前のような強い関心や所有の必要性が薄れてきている。自転車の場合は、従来と異なり大人用の自転車消費が増え、販売される自転車の種類も変化している。

2. 法律順守の徹底

- ▶まずは自転車が車両であり車道を走行すべきであること、かつ左側通行が徹底されることが最優先で急がれる。これだけでも自転車に関わる事故が減り、負傷の重篤度が激減する。
- ▶クルマ利用者と自転車利用者の双方が法律を順守し、海外などからの訪問者を驚かせることのない、当たり前な安全な都市になることを目指したい。

3. 自転車インフラの整備

- ▶自転車レーンが整備されれば自転車のスピードは上がり、場合によってはクルマより目的地に早く着くことが分かってくる。「毎日の移動には自転車が便利で早い」、「自転車に乗ることはスマートな選択」というコンセンサスができれば、通勤や通学での利用者が自然に増えていくだろう。
- ▶通勤手段としての自転車利用を推し進めるためには、企業などが協力し、従業員用の駐輪場を拡充整備することが求められるだろう。企業が自転車通勤者に対してのインセンティブとして「自転車通勤手当」を支給すれば、社員の通勤手当代や有酸素運動効果による病気のリスクも軽減されてコスト削減が可能になりうる。
- ▶さらに進んで、公共交通機関と自転車での移動を組み合わせ(コンビネーション交通)、車両内に自転車を乗せたのち、駅に着いたら目的地まで自転車で移動するという仕組みも注目に値する。

●スマートでエコな自転車先進都市へのイメージチェンジ

- ▶他の都市でまだなされていないこと、例えばアジアの自転車製造業との協働や、リサイクル自転車市場の集積地化など、地の利を生かしたプラスアルファを加えることで、福岡独自の都市デザインを描くことができる。
- ▶交通は人の流れを変え、考え方や行動をも変えていく。九州新幹線が全線開通してからは鹿児島への観光客が急増しており、九州一の都市という福岡の優位性にも変化が訪れるかもしれない。全国でも人口の流出入が最も活発なこの街で、移住者たちは福岡という地域を冷静に評価している。
- ▶他の都市と比較して暮らしやすいか、安全が守られているか、自治体は長期的戦略を持っているか、など移住してきた人々から多様な考え方を聞き、彼らから学んでいく必要がある。
- ▶なぜなら彼ら一人一人が福岡市民であり、今後は違う場所に移り住んだとしても、福岡のことを良くも悪くも広範囲にPRしてくれる重要な存在だからである。福岡の強みは、実はこういった身近な隣人にあるのではないだろうか。

(2) 佳作論文

「25年後のふくおかを支える人材育成への提言」(中尾雅幸氏)

- ▶25年後の福岡が真のアジアのリーダー都市になるためには、人材育成が欠かせません。
- ▶学校教育面で教育の根幹に関わる学制の見直しを行うとともに高校改革、新たな大学づくりを提言しています。
自分に自信を持つ子どもの割合を増大させ、コミュニケーション力に秀でた人材を育て、職業に直結するキャリア教育を推進します。
- ▶また、学校卒業後も福岡の地域特性を活かし、地域と密接に関わりながら支援体制を整備するとともにコミュニティビジネスを育てることを提言しています。
- ▶「人材育成」は、アジアの理想的な未来に向け、役割を分担しながら、街を創り上げていくことが望ましいと考えます。
福岡は、人をテーマとして、存在感を増していくのが望ましく、25年後「どのような時代になろうと」「どのような分野が注目されよう」と人が育つ街は魅力にあふれ、活力を持ち続け、アジアのリーダーにふさわしい都市になります。

「福岡市に『九州マルシェ』を創ろう！」(針貝礼子氏)

- ▶京都市の人口を追い抜いて発展を続ける福岡市。反面、九州の大半を占め、高齢化と人口減少に悩む過疎地。繁栄を謳歌する福岡市とは言え、エネルギー資源の制約、迫る食糧不足、地球環境からくる制約など、時代の制約を受けざるを得ない。また、陰の部分を放置して真の繁栄はもたらされない。それらの解決に向けて、福岡市はリーダーシップを発揮しなければならない。
- ▶そこで、アジア近隣諸国への玄関都市として、九州最大都市福岡市にマルシェを創ることを提言する。たとえば、様々な可能性を有する第1次産業であるが、それを引き出すための場を提供する。生産者は生きるためにいかにすれば売れるかを必死で考える。そこで、新たな加工品と販売についてのノウハウが生まれる。同様に、九州各地の工芸品なども常時展示させることで消費者に身近な存在となって生産と消費が活発になる。
- ▶また、新規技術開発等の情報発信役も担う。こうしてマルシェにおいて、消費者と生産者が密接交流・刺激しあう、楽しさと真の豊かさを九州やアジアの人びとにもたらそう。



平成23年
10月30日(日)
福岡市役所15階講堂
提言論文表彰式
(優秀賞 古舘氏)

「『子育てしたいまち』福岡へ」(宮原章氏)

- ▶25年後のふくおかについて考えると、少子高齢化という課題があり、その克服のため、子育てしたいまちを実現する。実現のためには、長期的な視点からの継続政策が必要である。また、子育ては経済、教育、環境、文化等、生活全般に関わる。まちの将来は子ども達が担うのであり、上記ビジョンを実現し、山笠に大勢の子どもが参加するような、福岡市を全世代で活気づくまちにしたい。
- ▶そのビジョン実現のため「合計特殊出生率日本一」を目標とし、下記施策を実施する。
 - ①幼児保育の充実、子育てモデルの提示
 - ②虐待防止のため妊娠期からケア
 - ③各校長による学校独自の学力向上策実施
 - ④学校給食の無料化、食育の充実
 - ⑤第2子・第3子の進学へ援助
 - ⑥治安の向上、漫画・絵本等の文化の充実、誰にもやさしいユニバーサルシティの構築
 - ⑦キッズポイントによる協力企業等の支援
- ▶以上施策実施の財源は、地方自治体による法定外目的税「子ども税」を市全体での議論を行った上で導入し、社会全体で子育てについて取り組む状態を実現させる。
- ▶本提言を実現させ、少子高齢化という社会構造上の最大問題に対し、福岡市が少子化対策の先進的モデル都市となり、そのノウハウを日本、世界に発信し、福岡発で日本、世界全体を活気づかせ、社会全体での子育てを通じ、幸福を感じられる社会としたい。

「『ふくおか』・イノチをつなぐ物語」(村田義郎氏)

- ▶〈柔らかな「ふくおか」のビジョン:まち育ての目標について〉
すでに成熟した社会では、成長ではなく持続可能な地域社会を目指すことが求められます。このような時代は、地域社会で受け継がれてきた地域文化や暮らしを基礎とした知恵や仕組みに学び、既存の枠組みを外して、今の時代にふさわしいものに仕立て直しながら、まち育てを進めることが大切だと思います。
- ▶「和(やわらぎ)を以て尊しと為す」
今、公共ということの意味が制度上の公共性:行政から本来の事実上の公共性:住民へと変わりつつあり、新しい意味や価値を市民が主体的に獲得してきています。
行政のいう統治の論理で枠組みされた規律遵守の安心社会ではなく、市民と行政が垣根をとりはらい、正直で勤勉で、お互いを尊重した信頼社会を築き、市民誰でもが参加し、意見を言い、まち育ての目標を定め、行動するそんな「ふくおか」であってほしいと思います。
- ▶また、25年後に大人になる子どもたちの育成は、何にもまして大切なことです。
物語で語ったような「まち育て」のなかで、子どもたちの「センス・オブ・ワンダー」や創造力を育む環境を創り、育て、次の世代に引き継いでいきたいものです。
- ▶ブータンの国のビジョンである「国民総幸福度」に例えるならば「住民総幸福度」をビジョンに、「ふくおか」のまち育ての目標は、次のようになります。
 - ①地域の個性を活かした社会経済活動を育てる
 - ②祭りや芸能、食、暮らしなどの地域文化を守り、育てる
 - ③広域的な環境保全に取組み、身近な自然環境、あそび環境を創造し、大切に育てる
 - ④地域コミュニティと行政の信頼と自由闊達な共働によるガバナンス

(3) その他の論文

●女性・こども

- ▶アイランドシティを「こどもの島」に
- ▶安心して子供を産み育てることができるまち
- ▶子供目線からの街作り参加

●人材・教育

- ▶ヒトの気持ちを育て、意思と都市としての意図を一つの方向へ向ける
- ▶「正しい歴史」を認識する、郷土を愛し「公に尽くす心」を身に付ける、「自己主張ができる」能力を持つ、そのための教育改革
- ▶福岡＝「人」
- ▶アジアの知的拠点都市としての福岡
- ▶数多くの大学を有することを背景に、世界最高水準の産業集積

●高齢社会対応

- ▶東アジアの富裕高齢者の楽園「九州」の玄関口
- ▶お年寄りが生きがいをもち元気に過ごせるまち
- ▶孤独死防止・無縁社会の解消

●市民主体・地域主権

- ▶届かない心的心声を市が知る
- ▶官民共同で市民参加の勉強会を開く
- ▶日本人、福岡市民として自分自身に誇りを持たなければならない
- ▶「シビックプライド(Civic Pride)」に立脚して多面的に物事を捉えていく
- ▶福岡市の人々が福岡市を発信できる力をつける
- ▶福岡市の人々がより魅力的になるよう努力する
- ▶ヒューマンシティ
- ▶地域活動団体のネットワーク化
- ▶都市機能の移行に伴い行政および民間の垣根を越える
- ▶道州制を見据えての地域主権と共生
- ▶市民主体の徹底

●インフラ・まちづくり

- ▶100年後のことをイメージした福岡の街づくりにするべき
- ▶職場・住宅・学校・職場がクロスする街
- ▶海(博多湾)との連帯をメインとした都市の造り替え
- ▶河川も海の一部と考え景観を整える
- ▶地下鉄の博多埠頭、アイランドシティへの延伸
- ▶海に向かう新しい都市開発
- ▶都心の再生と人にやさしい街に再生
- ▶歩行者専用道路の設置
- ▶空港のネットワーク化
- ▶福岡空港を世界水準の空港として新設
- ▶人工島は海浜都市として町づくり
- ▶陸海空の交通インフラを効率よく接続

●環境・クリーンエネルギー

- ▶今以上に自然を愛し守ろうとする人々を増やしていく
- ▶東アジアの奇跡 自然と共生する都市
- ▶22世紀型 エネルギーサイクルの先進都市
- ▶「サイクルシティふくおか」推進
- ▶原発廃止:再生エネルギーに転換
- ▶自然と調和がとれたまち
- ▶車中心社会の都市計画の見直し
- ▶既存の自然環境の有効利用
- ▶自然に負荷をかけない街作り
- ▶自転車の専用道路を整備
- ▶市民共有自転車システムの創設
- ▶パークアンドライドの多様化
- ▶現空港跡地を新エネルギー都市として再生
- ▶脱原発社会を目指して
- ▶環境・エコ・エネルギー対策

●安心・安全

- ▶フクオカハ アンゼンデスカ?
- ▶災害に対し万全な防備がなされ、安全で安心して暮らせるまち
- ▶住環境の充実(安心・安全・住みやすさ)
- ▶近代都市福岡の安全安心を守る

●歴史・文化

- ▶「和の文化」、地理的条件と九州の人特有の性格を活用して「国際的観光都市」になる
- ▶古き伝統文化と、世界最先端の科学技術が共存する
- ▶歴史の再発見 鴻臚館のあった ふくおか
- ▶歴史の町福岡と福岡城の再建
- ▶文化や情報の発信地としても重要な街
- ▶歴史文化と食文化
- ▶祭文化の醸成

●観光・交流

- ▶おもてなしの心に満ち溢れた国際集客都市になる
- ▶船や飛行機などとの交通網の運用面を改善し、交通の結節点としていく
- ▶九州全体との連携は、必要不可欠である
- ▶SYUUGAKURYOKOUのメッカ
- ▶食の都
- ▶世界が賞賛する住み良さ～コンベンション都市を目指して
- ▶複合型観光都市
- ▶国際会議とイベントの開催促進
- ▶スポーツ振興とその支援

●アジア・世界

- ▶東アジアの先進的なショールーム
- ▶東アジアの国境の壁を低くして大交流時代の結節点
- ▶東アジア有事後のリーダー都市
- ▶市の公用語は日本語、第二が英語
- ▶新中国街を建設
- ▶外国人との共生
- ▶アジアの玄関としての機能を活かした、東京や大阪に負けない西の副都心としてのまち
- ▶福岡から世界を見通せ挑戦できる場所になる

●経済・活力

- ・今以上に多様な雇用の場を創出し、活力を市内に蔓延させる
- ・付加価値の高い産業に目標を定め、それを支える人材の育成を進める
- ・必要な都市インフラの整備(維持)は今後も行うべき
- ・地下街拡張
- ・半導体関連産業のさらなる誘致
- ・市域の拡大(合併)と都市圏の充実
- ・夜の自由市場建設、屋台の拡大
- ・商店や個人事業者などの零細企業者が元気に活動できるまち
- ・子供、若者、サラリーマン、お年寄りがクロスする街
- ・消費型都市からバランスの取れた都市
- ・海外向けの医療事業の創設
- ・物流拠点基地
- ・商業ビジネス集積都市
- ・お祭り特区を博多区に
- ・地産地消の推進